

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

| | | |
|--|-------------------|-------------------|
| 事業番号：★D-23-3-23・25 事業名：防災拠点施設整備事業 | | |
| 事業費：総額 333,366千円 国費 266,693千円 （内訳：設計費 7,700千円、工事費 320,826千円、工事監理費 4,840千円） | | |
| 事業期間：平成30年度～令和2年度 | | |
| 事業目的：防災拠点施設を整備することで、備蓄機能については、災害時に必要となる各種物資を一元的に備蓄及び管理することで初動対応力の強化を図る。また、防災拠点施設として、災害時の支援物資の受入と仕分け作業を行うための機能を付与することにより災害対応能力の向上を図る。 | | |
| 事業地区：巨理町全域 | | |
| 事業結果：防災拠点施設1箇所整備（鉄骨平屋 984.30㎡） <平成30年度> 実施設計 7,700千円 <令和元年度、令和2年度> 建設工事 320,826千円 <令和2年度> 令和3年2月10日より供用開始 | | |
| 事業の実績に関する評価 | | |
| ① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 ○防災拠点施設を整備したことにより、町内の各避難所の初動対応期における運営に必要な備蓄品を効率的な集中管理のもとに常備することが可能となり、また、災害時の支援物資の受入と仕分け作業を行うための機能を有したことにより、防災拠点施設として災害時の防災対応能力の向上が図られた。 ⇒上記を踏まえ、本事業は事業目的に即した効果を発揮していると判断する。 | | |
| ② コストに関する調査・分析・評価 ○関係法令に基づき、適正に一般競争入札を実施して業者を決定し実施した。 ○建築場所を役場新庁舎に近接させることでインフラ施設整備のコスト削減を図った。 ○電灯には、ランニングコストの低減や環境配慮の観点から、LED照明器具を採用した。 ⇒上記を踏まえ、本事業に要したコストは妥当と判断する。 | | |
| ③ 事業手法に関する調査・分析・評価 | | |
| | 想定事業期間 | 実際の事業期間 |
| 基本・実施設計 | 平成30年 7月～平成31年 3月 | 平成30年 9月～平成30年12月 |
| 建設工事 | 令和 2年 3月～令和 3年 3月 | 令和 2年 3月～令和 3年 1月 |
| ⇒想定事業期間内で整備を終えており、事業手法として妥当であったと判断する。 | | |
| 事業担当部局 巨理町総務課安全推進班 電話番号：0223-34-1111 | | |